授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
カリキュラム論</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
星名　陽太</td><td>実務経験</td><td colspan="3">首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任を経験する。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8 回</td><td>時間数（単位数）
16 時間（単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修 ・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
乳幼児保育における計画の意義、重要性を学ぶ。また実際に計画を立てる中で、保育者間の情報共有、共通理解を図る上で必要な要素を知り、適切な記載方法を身に付ける。
［授業全体の内容の概要］
保育現場における様々な計画の存在やその必要性について考える。「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性について知り、実際に立ててみる。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・保育における計画の意義、重要性について理解し、実際に自身の立てた計画に反映することができる。
・計画に沿った実践、それを踏まえた省察の必要性を学び、自身の専門性の向上に繋げる資質を養う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．幼稚園における教育課程の意義について①
2．幼稚園における教育課程の意義について②
3．幼児期の遊びと学びについて
4．保育における計画について
5．教育課程の実施と指導計画の作成について
6．指導計画作成の実際について
7．保育における評価について
8．教育課程・保育課程の課題と展望について</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">『教育課程論』　神長美津子　他　光生観
『保育所保育指針』厚生労働省
『幼稚園教育要領』文部科学省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">レポート評価による。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
こどもと環境</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
星名　陽太</td><td>実務経験</td><td colspan="3">首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任を経験する。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8 回</td><td>時間数（単位数）
16 時間（単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修 ・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
乳幼児保育と領域「環境」との関連について学び、専門的知識に関する感性を養う。
［授業全体の内容の概要］
乳幼児期の環境が育ちにどのような影響を与えるのか、思考力の育成や標識、文字、数への興味・関心に結び付けながら学習する。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・保育における環境の意義、重要性について再認識し、保育における専門的概念を用いて説明することができる。
・本授業で修得した環境への配慮、工夫を踏まえた保育展開を計画できる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．環境構成と領域それぞれにおける環境についての意義について①
2．環境構成と領域それぞれにおける環境についての意義について②
3．環境を構成するとはいかなる実践であるのかについて
4．保育者と「人的環境」との違いについて
5．領域「環境」における社会環境の意義について
6．領域「環境」における自然環境の意義について
7．領域「環境」における数、量、文字の扱いについて
8．保幼小接続（カリキュラムでの接続）と領域「環境」の関係について</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">『教育課程論』　神長美津子　他　光生観
『保育所保育指針』厚生労働省
『幼稚園教育要領』文部科学省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">レポート評価による。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 こどもと健康		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）
授業担当者 星名　陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	（ 必修 ・ 選択 ）
11回	22時間（1単位）	1年・前期	

［授業の目的・ねらい］

保育内容（健康）での学びを基に、より実践的な知識や幅広い援助方法を身に着ける。

［授業全体の内容の概要］

現代の保育現場における子どもの健康課題や安全教育について考える。また他の領域との繋がりを考えながら、子どもの健康を守る保育者になるために「遊び」と「生活」の視点から学びを深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

子どもの健康を維持したり、安全を守ったりする責任を自覚する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15回までの場合はセル結合）

講義日程	授　業　内　容
1回	乳幼児期の「健康」について
2回	乳幼児期の子どもの育ちと発達
3回	現代における乳幼児の健康課題
4回	乳児の安全管理と健康教育①
5回	乳児の安全管理と健康教育②
6回	幼児の安全管理と健康教育①
7回	幼児の安全管理と健康教育②
8回	乳幼児の運動発達と指導法①
9回	乳幼児の運動発達と指導法②
10回	幼児教育現場（就学前施設）における乳幼児の健康管理

１１回	スクーリング修了試験
スクーリング 修了試験設題	「現代における子どもの健康課題について事例を挙げ それに対して具体的な支援を書きなさい。」 論述式字数「1000～1200 字程度」　資料等の持ち込み可能
面接授業 (スクーリング) 評価・採点基準	評価基準 スクーリング修了試験　　総合の 50% 授業中の態度、積極性　　総合の 50% 総合点　　100 点 ※　注意：授業は全部出席してください。遅刻・早退・無断退出は 1 回につき 10 点の減点となります。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 こどもと言葉		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 星名　陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任を経験する。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。	
授業の回数 8 回	時間数（単位数） 16 時間（単位）	配当学年・時期 1 年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。

［授業全体の内容の概要］

人間にとっての言葉の意義や機能について理解する。また、言葉に対する感覚を豊かにする実践、子どもにとっての児童文化財の意義について学ぶ。

［授業終了時の達成課題(到達目標)］

乳幼児の言葉の発達過程について説明できる。言葉の楽しさや美しさについて理解し、言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践や知識を身につける。子どもの発達に合わせた児童文化財の意義について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1．子どもの誕生から小学校就学までの言葉の発達過程、各段階の特徴①
2．子どもの誕生から小学校就学までの言葉の発達過程、各段階の特徴②
3．言葉の持つ機能
4．子どもが有意味語を言い始める前の「言葉の前のことば」
5．言葉の持つ４つの側面
6．言葉遊び
7．児童文化財の意義
8．児童文化財の中で、身近にある絵本、紙芝居、物語の読み聞かせ

［使用テキスト・参考文献］	『子どもの姿からはじめる領域・言葉』秋田喜代美（みらい） 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府
［単位認定の方法及び基準］	レポート評価による。

授　業　概　要

（幼稚園専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
こどもと人間関係</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
嘉代　由美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立幼稚園において３～５歳児、認定こども園において０～２歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8 回</td><td>時間数（単位数）
16 時間（1 単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修 ・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。
［授業全体の内容の概要］
子どもを取り巻く人間関係をめぐる時代的課題を理解する。また、乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論理的視点から理解する。
［授業終了時の達成課題（到達目標)］
・子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と、その社会的背景を理解している。
・乳幼児期おける身近な大人とのかかわり方で育つ、人と関わる力の発達、また、生活・遊びの中で育つ、人と関わる力の発達について説明できる。
・自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生えや育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．人と関わる力の基盤として、発達段階初期の身近な大人との間の愛着の重要性について①
2．人と関わる力の基盤として、発達段階初期の身近な大人との間の愛着の重要性について②
3．幼児期の人間関係の重要性について
4．子どもの「人と関わる力」を育てる「個」と「個」、「個」と「集団」について
5．「人と関わる力」と自立心について
6．「人と関わる力」と協同性について
7．「人と関わる力」と道徳性・規範意識について
8．人間関係の発達において多様な人と関わる体験について</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="3">［使用テキスト］
『子どもの姿から始める領域・人間関係』秋田喜代美　みらい
『幼稚園教育要領』（平成 29 年告示）文部科学省
［参考文献］
『保育所保育指針』（平成 29 年告示）厚生労働省
『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』（平成 29 年告示）
内閣府・文部科学省・厚生労働省</td></tr>
<tr><td colspan="2">［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="3">レポートおよび科目終了試験の評価に準ずる。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 こどもと造形		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 溝口　敏美	実務経験	県立高等学校および県内の専修学校にて、美術科目の講師として学生指導に従事した。	
授業の回数 11 回	時間数（単位数） 22 時間	配当学年・時期 1 年・前期	（　必修　・　選択　）

［授業の目的・ねらい］
造形の基礎を身に付け、美的感性を磨き、多様な表現や想像力を養うことをねらいとしています。そのために、素材、環境を通した造形活動を行います。
［授業全体の内容の概要］
素材、環境を通した造形活動
［授業終了時の達成課題（到達目標)］
造形の基礎を理解し、楽しみながら意欲的に造形活動を行なったか。作品が新鮮で魅力的な創意に満ちたものであるか。多様な表現技術の確認と向上を目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1 回	＜オリエンテーション　各素材の説明＞ 平面　線描・スクリプルの確認（鉛筆・消しゴム）
2 回	平面　線描曼荼羅図の作成　彩色　①（絵の具・マジック）
3 回	平面　線描曼荼羅図の作成　彩色　②（絵の具・マジック）
4 回	平面　線描曼荼羅図の作成　彩色　③（絵の具・マジック）
5 回	＜立体・粘土＞ 固まる粘土　楽しいランチタイム　①（紙粘土・絵の具）
6 回	固まる粘土　楽しいランチタイム　②（紙粘土・絵の具）
7 回	固まる粘土　楽しいランチタイム　③（紙粘土・絵の具）
8 回	平面　切り絵　季節の行事の表現　①（色画用紙・糊・色紙）
9 回	平面　切り絵　季節の行事の表現　②（色画用紙・糊・色紙）
10 回	平面　切り絵　季節の行事の表現　③（色画用紙・糊・色紙）
11 回	各自の作品の鑑賞の後、試験

〔使用テキスト参考文献］	なし

［単位認定の方法及び基準］	評価基準 試験（作品評価）　　総合の 50% 授業中の積極性・意欲・理解　　総合の 50% 総合点　　100 点 ※注意：授業は全部出席してください。遅刻・早退・無断退出は 1 回につき 10 点の減点となります。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 こどものピアノ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 寺川　啓子	実務経験	県内の専門学校や高等学校、県外の短期大学において、長年ピアノ・声楽の講師として指導を行っている。	
授業の回数 16 回	時間数（単位数） 32 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・前期	（　必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］

保育や教育の場において必要とされるピアノ演奏や弾き歌いについて学ぶ。

音楽の基礎的な知識・技術を学び、コード奏法を用いたさまざまな曲を弾くことにより、演奏技術の向上や実践的な技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］

保育者としての音楽の基礎知識、ピアノ技術・歌唱法を中心に授業を展開する。

学生の進度に合わせて、個人レッスンとグループレッスンを交互に行う。

個人レッスンでは、課題曲を教材とする一方、グループレッスンでは、発声法、コードネームを使った弾き歌いと、それに伴う演奏法、演奏技術を発展させながら進める。演奏技術を更に向上させ、保育現場での実践に即した『弾き歌い』を中心に対応した授業を展開する。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

・音楽の基礎的な知識・技術を習得する。
・バイエルやブルグミュラーから基礎的な演奏技術を身につける。
・コード奏法をもちいた弾き歌いができる。
・保育・教育現場で子どもたちを意識した伴奏や弾き歌いができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1・2 バイエル 66 番 きらきら星 たなばたさま 3・4 線路は続くよどこまでも こぶたぬきつねこ 5・6 バイエル 78 番 ぞうさん 7・8 さんぽ ふしぎなポケット 犬のおまわりさん	9・10 アラベスク おべんとう あめふりくまのこ 11・12 おかえりのうた こいのぼり 世界中のこどもたちが 13・14 パストラル あわてん坊のサンタクロース 15・16 飛んでいったバナナ 実技テスト　（弾き歌い）

［使用テキスト・参考文献］	『新・わかりやすい音楽表現入門』北大路書房 石橋 裕子 他

［単位認定の方法及び基準］	教科出席率が80％以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・期末考査（実技試験） ・授業（学習）態度 ・課題（自主練習含む）

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
リズム表現</td><td colspan="3">授業の種類（　講義　・ 演習 ・　実習　）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8 回</td><td>時間数（単位数）
16 時間（1 単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修 ・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
・創作ダンスを考え、こどもが真似できる振り付けを発達段階など踏まえながら考えることが出来るようになる。
・仲間の表現を認め合いながら、意見を出し合い、協調して一つの作品を作り上げることが出来るようになる。
［授業全体の内容の概要］
・学生主体による踊る楽しさや喜びを体験し、表現することの可能性を発見するとともに「踊る」「創る」「観る」という活動を通して、指導・実践能力を養う。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・　創作ダンスを考える発想力を養えるようになる。
・　企画力を養えるようになる。
・　発表会(学園祭)で発表できるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1.　授業の概要(オリエンテーション)
2.　役割・曲決め
3.　ビデオ学習
4.　ビデオ学習
5.　デモンストレーション学習
6.　デモンストレーション学習
7.　リハーサル学習
8.　発表(試験)
　　発表(学園祭)</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="3">なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="3">授業態度 50％
試験 50％
総合点 100％</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
こどもと音楽</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8 回</td><td>時間数（単位数）
12 時間（単位）</td><td>配当学年・時期
YK3 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
・領域「表現」の中の「音楽」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音あそびや環境の構成など専門的事項についての知識、技能、表現力を身につける。
［授業全体の内容の概要］
・乳幼児の音や音楽による表現の姿やその発達を理解する。
・音楽表現の基礎的な知識、技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解し、様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、乳幼児の表現活動に展開させるまでを関連付けて考えることが出来る。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．乳幼児の音楽的表現活動の具体例を挙げ、乳幼児の音楽的表現の発達について保育者はどのような視点を大切にすべきかについて学ぶ。
2．領域「表現」における音楽表現の扱い・役割について理解する。
3．保育内容「表現」の音楽的側面(音楽表現)について考察し、まとめる。
4．乳幼児の「生活」と「遊びの中の音楽」の関係について。
5．音楽鑑賞会(参加型を含む)の活動の意義について
6．音楽表現による協働性や道徳性の芽生えについて
7．情報化社会と保育内容の音楽的側面の展開と工夫について
8．保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて
9.　音楽遊び(身の回りの素材による音楽遊び)
10.　イメージを音に表現する
11.　スクーリング試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="3">保育者をめざす人の保育内容
「言葉」　駒井　美智子編
株式会社　みらい</td></tr>
<tr><td colspan="2">［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="3">・授業中のグループワークや音楽活動など授業への参加状況
総合の５０％
・試験　総合の５０％　総合点　１００％</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
保育内容「言葉」</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8 回</td><td>時間数（単位数）
12 時間（単位）</td><td>配当学年・時期
YK3 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修・ 選択 ）</td></tr>
</table>

［授業の目的・ねらい］

・子どもの言葉の発達と言語環境について学び、幼児自らが言葉で表現する力や、言葉に対する感覚を養うための保育について考察でき、それに伴う望ましい環境構成を理解する。
絵本･紙芝居等の言語教材による援助の方法と技術を修得する。

［授業全体の内容の概要］

・乳幼児が言葉を獲得する過程を理解し、言葉の発達の背景にある保育内容を考えながら、保育のあり方や援助の方法を学習する。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

・言葉の基礎が育まれる乳幼児期において、保育者の役割の重要性を学んだ上で、自分自身の言葉のありようを見つめ直し、保育現場で実践できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．乳幼児期における言語発達段階の特徴を挙げ、その時期の保育者の支援・援助との関連について学ぶ。（専門用語を踏まえ、心身の発達を確認する。）

2．乳幼児期における言語発達段階の特徴を挙げ、その時期の保育者の支援・援助との関連について学ぶ。（言語発達の特徴を踏まえ、言語遅滞にも目を向ける。）

3．保育内容「言葉」の観点を学ぶ。

4．乳幼児の言葉の発達について学ぶ。

5．絵本・紙芝居などの特徴を理解する。

6．言葉の発達を支援する保育者の「言葉」について

7．模倣と成長について学ぶ。（人的環境としての保育者について理解する）

8．言葉を習得する乳幼児に及ぼす保育者の影響について考察する。

［使用テキスト・参考文献］	保育者をめざす人の保育内容 「言葉」　駒井　美智子編 株式会社　みらい
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。（５%） ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（10%）。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 保育内容「表現」		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 佐藤　恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 8 回	時間数（単位数） 12 時間（単位）	配当学年・時期 YK3 年・前期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

・乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力などを身につける。

［授業全体の内容の概要］

・乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育士は、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意思のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれに大切に受け止めるための理解力を培っていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

・保育内容の 5 つの領域は、保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的にとらえる視点を持てるようにし、保育を進めていくことができるように学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1、領域「表現」の意味について。その「ねらい」と「内容」を正確に理解する。
2、領域「表現」の歴史的変遷について学ぶ。
3、乳幼児の発達と「表現」の考え方について理解する。
4、現代社会における子どもを取り巻く環境の問題点を踏まえながら、表現を育てる保育者の役割について考察する。
5、子どもの表現の特徴を捉え、年齢に沿った発達を学ぶ。
6、表現活動の展開と援助について具体的事例から考察し学ぶ。
7、領域「表現」のねらいを参考に、指導案を立案する。(実践演習)
8、保育現場における「子どもの表現を育てる保育」とは(実践演習)
9、音や音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する。
１０、　造形活動に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する。
１１、　スクーリング修了試験

［使用テキスト・参考文献］	最新保育講座 11 保育内容「表現」　ミネルヴァ書房

［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。（５%） ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（10%）。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
教育実習指導（初等）Ⅰ</td><td colspan="3">授業の種類（　講義　・［演習］・　実習　）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
11 回</td><td>時間数（単位数）
20 時間（2 単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td colspan="2">（［必修］・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
教育実習のねらいを達成するために必要な態度や知識、技能の習得を目的とする。
［授業全体の内容の概要］
教育実習の基礎知識や心構えを身に付けるために、講義、演習、事例検討を通して学ぶ。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・　教育実習の目的、心構えがわかる。
・　教育実習における記録や指導案立案の方法がわかる。
・　幼児理解、教材研究、指導の方法がわかる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1.　教育実習の意義
2.　子ども理解と実態の把握
3.　日誌を書く必要性と日誌の書き方
4.　指導案に必要な事項
5.　指導案作成の実践
6.　模擬保育・授業の実施
7.　模擬保育・授業の実施
8.　模擬保育・授業の実施
9.　実習に必要な心構えとマナー
10.　自己理解と実習に向けての課題
11.　試験</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック（大学図書出版）</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">授業態度 50％
試験 50％
総合点 100％</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
教育実習指導（初等）Ⅱ</td><td colspan="3">授業の種類（　講義　・［演習］・　実習　）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
11 回</td><td>時間数（単位数）
20 時間（2 単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・後期</td><td colspan="2">（［必修］・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
教育実習を通して学んだことの省察を通して、教員として必要な自己課題を明確にするとともに、その課題解決のための学習意欲を高めることを目的とする。
［授業全体の内容の概要］
教育実習の省察を中心に他者との学びの成果を共有する中で学びを深め、自己課題の改善に向けた取り組みに繋げる。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・　教育実習の成果を具体的に他者へ報告することができる。
・　教員として必要な自己課題を明確にすることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1.　自己課題と照らし合わせて振り返る
2.　幼児教育の実際についての学びを振り返る
3.　子どもや教師の姿から学んだことを振り返る
4.　教育実習でのエピソードをもとに振り返る
5.　実習日誌記入を振り返り課題を整理する
6.　教師の役割・環境を通して行う教育の意義について整理する
7.　教材研究についての学びをディスカッションする
8.　教材研究についての学びをディスカッションする
9.　3 歳児～5 歳児の年齢別の特徴や指導についての学びをディスカッションする
10. 保育者として専門性をより向上するために必要なことについてディスカッションする
11. 試験</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック（大学図書出版）</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">授業態度 50％
試験 50％
総合点 100％</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
総合演習</td><td colspan="3">授業の種類（　講義・　演習　・　実習　）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業担当者
星名　陽太</td><td rowspan="2">実務経験</td><td colspan="3">首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任を経験する。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。</td></tr>
<tr><td>三上　真里子</td><td colspan="3">私立保育園において２６年間勤務し、０～５歳児の担任業務に従事。また、担任業務の他、実習生指導を行った。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
9 回</td><td>時間数（単位数）
18 時間（単位）</td><td>配当学年・時期
１年・後期</td><td colspan="2">（　必修・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
3 年間の学びの中で自身が興味を持った領域やテーマに着目し、研究と教材作成をする。またクラス内で発表し合う機会を通して他者の研究テーマについて理解を深めたり、現場で活用できる教材のアイデアを増やしたりする。
［授業全体の内容の概要］
個々に興味を持った領域から特定のテーマを決め、研究をしていく中でプレゼンテーション資料と現場で活用できる自作教材を作成する。終盤ではクラス内での発表会を実施し、学びの共有を行う。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・現代の幼児教育の課題発見と具体的な援助についての見通しを持つこと。
・子どもの生命を守り、育ちを保障する専門職としての自覚を養うこと。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1. オープニング
2. 研究開始（テーマ設定、教材研究、教材作成）
3. プレゼン資料、自作教材作成①
4. プレゼン資料、自作教材作成②
5. プレゼン資料、自作教材作成③
6. プレゼン資料、自作教材作成④
7. プレゼン資料、自作教材作成⑤
8. プレゼン資料、自作教材作成⑥
9. プレゼン資料、自作教材作成⑦
10. プレゼン資料、自作教材作成⑧
11. プレゼン資料、自作教材作成⑨
12. 動作確認、クラス内発表
13. 最終調整
14. 発表１部（専攻科希望者対象）
15. 発表２部（専攻科希望者対象）</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="3">『保育所保育指針』厚生労働省
『幼稚園教育要領』文部科学省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府</td></tr>
</table>

［単位認定の方法及び基準］	授業態度及びプレゼンテーション資料と自作教材の完成度

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 卒業実践演習		授業の種類（　講義　・ 演習 ・　実習　）
授業担当者 三上真里子	実務経験	私立保育園において２６年間勤務し、０～５歳児の担任業務に従事。また、担任業務の他、実習生指導を行った。
授業担当者 嘉代由美子	実務経験	私立幼稚園において３～５歳児、認定こども園において０～２歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った

授業の回数 30 回	時間数（単位数） 60 時間（2 単位）	配当学年・時期 専攻科・通年	（ 必修 ・　選択　）

［授業の目的・ねらい］

・保育現場において、直ぐに活用できる保育教材を考案して制作することを目的とする。

・保育現場において、保育者同士の協働が円滑に行えるよう、実践を通して習得できるようにすることを目的とする。

他者の意見を取り入れながらも自己の意見を積極的に出すことができる。

［授業全体の内容の概要］

・個々に、既存の物語を工夫して折り畳み絵本制作を行う。

・グループに分かれ、指定された技法及び期限内で折り紙壁画制作を行う。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

1．他者の意見を取り入れながらも自己の意見を積極的に出すことができる。
2．創意工夫しながら、専門性を十分に発揮して取り組むことができる。
3．設定された枠の中で、積極的且つ計画的に取り組むことができる。
4．向上心を持ち、他者と強調しながら取り組むことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．既存の物語を 8 コマに構想を考え、計画書を作る。	14.土台となる用紙の補強・下書き。
2．色画用紙を切ったり貼ったりして作り進めていく。	15.タイル折りの伝授・折り進める。
3．同上	16.タイル画を折り進めながら、作業をしていく。
4．同上	17.同上
5．同上	18.同上
6．同上	19.同上
7．８枚絵本を完成させる。	20.同上
8．実践発表。	21.同上
9．８枚絵本振り返り。実習や CAV で使える手作り玩具・教材の立案。	22.同上
10．手作り玩具・教材の作成。（いくつでも可）	23.同上
11．同上	24.同上
12．同上	25.同上
13．手作り玩具・教材の完成・発表。タイル画のグループ決め・計画書作成・配色決め。	26.同上
	27.同上
	28.同上
	29.同上

	30.完成
［使用テキスト・参考文献］	・適宜プリントを配布する。・保育雑誌等を参考にする。
［単位認定の方法及び基準］	・授業態度　　・授業への取り組み

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
発達心理学Ⅰ</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
板垣　寛</td><td>実務経験</td><td colspan="3">臨床心理士。児童相談所相談員、児童発達支援センター相談員として従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8回</td><td>時間数（単位数）
16時間（1単位）</td><td>配当学年・時期
1年・前期</td><td colspan="2">（ 必修 ・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
発達の概念の今日までの変化やライフステージについて学び、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援の在り方について理解する。
［授業全体の内容の概要］
発達の過程において、心身の発達がどのように行われるのかということや、発達を規定する要因などについての知識を学ぶ。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・生涯発達の理論について理解し、各ライフステージの特徴について説明できる。
・現在の発達の概念や、子どもの認知・言語・感情面での発達の過程について理解できる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．胎児期・乳幼児期の発達的な特徴
2．児童期・思春期の発達的な特徴
3．「発達」の今日的君について
4．発達を規定する要因について
5．各ライフステージの特徴とエリクソンの心理的危機について
6．身体・運動の発達について
7．認知・言語・感情の発達について
8．子どもの発達における今日的課題について</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫（北大路書房）</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">レポート評価による。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
保育・教職実践演習</td><td colspan="4">授業の種類（　講義　・［演習］・　実習　）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="4">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
11 回</td><td colspan="2">時間数（単位数）
20 時間（2 単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・後期</td><td colspan="2">（［必修］・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="6">［授業の目的・ねらい］
これまでの専門的な科目履修や実習等を通して習得してきた知識・技能を点検・確認し、不足している部分を向上するとともに、教育や保育の現場で働く知識や技術を身に付けて行くことを目的とする。
［授業全体の内容の概要］
保育実践上の課題や子どもや子育てに関わる環境上の諸問題について、主体的に調べ考察しながら地域との連携について理解していく。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・ 保育者としての資質について理解し、自分自身の実践力を理解するとともに、改善・向上に向けた取り組みができる。
・ 地域との連携を考えた保育実践について理解することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="6">1. 現在の保育問題について子ども・保育に関わる新聞記事から自分の考えを述べる。
2. 現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼少連携等）についてテーマごとに研究
3. 現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼少連携等）についてテーマごとにグループ討議、まとめ
4. 現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼少連携等）についてグループごとに研究発表
5. 行事における教材研究①実習での反省を生かし、行事の際に使える教材の研究、計画
6. 行事における教材研究②行事の際に使える教材の研究、作成
7. 行事における教材研究③行事の際に使える教材の研究、作成
8. 行事における教材研究④作成した教材の実演
9. 総合的な実践ロールプレイ①子どもの対応について
10. 総合的な実践ロールプレイ②保護者対応について
11. スクーリング終了試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">保育・教職実践演習（大学図書出版）</td></tr>
<tr><td colspan="2">［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">授業中のグループワークや制作など、授業への参加状況：総合の 50％
試験：総合の 50％
総合点：100％</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
保育・教職実践演習</td><td colspan="3">授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
三上　真里子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園において２６年間勤務して、０～５歳児の担任業務に従事。また、担任業務の他、実習生指導を行った。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
８回</td><td>時間数（単位数）
16 時間（1 単位）</td><td>配当学年・時期
１年・前期</td><td colspan="2">（　必修・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
これまでの専門的な科目履修や実習等を通して習得してきた知識・技能を点検・確認し、不足している部分を向上するとともに、教育や保育の現場で働く知識や技術を身に付けて行くことを目的とする。
［授業全体の内容の概要］
保育実践上の課題や子どもや子育てに関わる環境上の諸問題について、主体的に調べ考察しながら地域との連携について理解していく。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・ 保育者としての資質について理解し、自分自身の実践力を理解するとともに、改善・向上に向けた取り組みができる。
・ 地域との連携を考えた保育実践について理解することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1.　最近の子どもの育ち（しつけ等も含めて）に対する家庭、社会環境の影響
2.　現行保育制度（保育園、幼稚園、認定こども園）の問題点
3.　日本における少子化現象と保育上の課題について
4.　現代の保護者の子育て意識と保育施設、保育者の役割について
5.　都市化現象が子どもの生活と発達に及ぼす影響について
6.　保護者支援の方法について
7.　子どもの遊びを豊かにする環境構成、材料、保育者の関わりについて
8.　保育における地域との連携について</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="3">大学図書出版『保育・教職実践演習』
社会福祉法人日本保育協会『保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』。
大学図書出版『幼稚園・小学校教育実習』
駒井美智子編著、大学図書出版『保育者のための保育実習対応ガイドブック』</td></tr>
<tr><td colspan="2">［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="3">レポート等の評価による。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
保育実技</td><td colspan="3">授業の種類（　講義　・ 演習 ・　実習　）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
嘉代由美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立幼稚園において3～５歳児、認定こども園において０～２歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った</td></tr>
<tr><td>授業の回数
8回</td><td>時間数（単位数）
16時間（単位）</td><td>配当学年・時期
１年・後期</td><td colspan="2">（ 必修 ・　選択　）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
現況の保育の現場で求められる力を身付け、即戦力として活躍できる保育者を目指す。
［授業全体の内容の概要］
保育現場における様々な業務を知る。「壁面飾り」「園だより」「指導要録・保育要録」の実際について知り、実際に計画、作成を行う。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・保育の現場における保育以外の業務が多岐にわたっていることを知る。
・様々な業務の計画・作成を実践してみることで、卒業後の自身に反映することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．保育現場における業務の実状を知る、立案
2．保育現場における業務「壁面飾り作り」① 行事の壁面・季節の壁面
3．保育現場における業務「壁面飾り作り」②子どもの作品が加わる
4．保育現場における業務「壁面飾り作り」③発表
5．保育現場における業務「おたより作成」①構成
6．保育現場における業務「おたより作成」②作成
7．保育現場における業務「指導要録・保育要録」①
8．保育現場における業務「指導要録・保育要録」②作成</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">なし　適宜プリントを配布</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">各作成物の作成工程、提出による。</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 保育内容（環境）			授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）
授業担当者 星名　陽太	実務経験		首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。
授業の回数 11回	時間数（単位数） 22時間（1単位）	配当学年・時期 1年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容を踏まえ、実践や事例を通して、身近な環境の特性を明らかにすると共に、学生自身が身近な環境に好奇心や探究心を持ち、幼児の生活と結びついた保育の展開を身に付ける。

［授業全体の内容の概要］

幼児が成長していく過程において、生活の中で出会うすべての物が大切な環境である。保育者はその環境が幼児の成長を促すものとするために、抽象的な知識を教えるのではなく具体的な直接体験として、身近な環境を通して、主体的に行動できる力を育だていく保育とはどのような保育であるかを考えていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

日常生活の様々な場面で、幼児が関わる人的環境、物的環境、自然環境について演習を交えながら学習する。そこから幼児が身近な環境に興味・関心を持って関わる力を育てるにはどうしたら良いかを、各自で解答を導き出す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15回までの場合はセル結合）

講義日程	授　業　内　容
1回	領域「環境」について～内容と意義～
2回	乳幼児のための「環境」を考える～子どもにとってより良い「環境」とは～
3回	乳児が過ごす「環境」について～生活と遊びの視点から～
4回	幼児が過ごす「環境」について～生活と遊びの視点から～
5回	人的環境と物的環境
6回	社会的環境と自然環境
7回	子どもと自然災害
8回	生命の尊さを学ぶ「環境」/数字や文字に触れる「環境」

９回	小学校（義務）教育への接続
１０回	これからの保育環境について（国際化、IT 化、インクルーシブ化）
１１回	スクーリング修了試験
スクーリング 修了試験設題	「子どもにとって望ましい保育の「環境」について あなたの考えを具体例を挙げて述べよ」 論述式字数「1000～1200 字程度」　資料等の持ち込み可能
面接授業 (スクーリング) 評価・採点基準	評価基準 スクーリング修了試験　　総合の 50% 授業中の態度、積極性　　総合の 50% 総合点　　100 点 ※　注意：授業は全部出席してください。遅刻・早退・無断退出は 1 回につき 10 点の減点となります。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 保育内容（健康）		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）
授業担当者 星名　陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	（ 必修 ・ 選択 ）
11回	22時間（1単位）	1年・前期	

［授業の目的・ねらい］

保育内容を構成する「健康」について、乳幼児の健康に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進について理解すると共に、保育全体構造における健康に関して総合的に指導・援助が行えるよう理論や知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］

保育における領域「健康」の意義を改めて考え、子どもの発達と重ねながら望ましい援助について考察を深める。また視覚教材を作る中で、年齢や発達に合わせた活用を身につける。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

幼児が保育所での日常生活において、健康で楽しい生活を送るためには、保育者はどのような配慮が必要かを保育者の安全教育、基本的生活習慣の確立、集団生活における保育者の役割や位置付けについて、また、発達年齢の特徴を入れながら幼児の体・言葉・心の発達理解ができる。さらには保護者支援にも視野を広げる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15回までの場合はセル結合）

講義日程	授　業　内　容
1回	領域「健康」について
2回	幼児期の子どもの育ちと発達
3回	子どもの健康とは～生活の視点から～
4回	子どもの健康とは～遊びの視点から～
5回	保育現場における安全教育
6回	幼児期の食育について
7回	視覚教材を用いた健康指導（理論）
8回	視覚教材を用いた健康指導（実践）

９回	これからの子どもの健康課題と保育所・保育士の役割について①
１０回	これからの子どもの健康課題と保育所・保育士の役割について②
１１回	スクーリング修了試験
スクーリング 修了試験設題	「子どもの発達の特徴とそれに応じた保育者の 望ましい援助の在り方について自分の考えを述べよ。」 論述式字数「1000～1200 字程度」　資料等の持ち込み可能
面接授業 (スクーリング) 評価・採点基準	評価基準 スクーリング修了試験　　総合の 50% 授業中の態度、積極性　　総合の 50% 総合点　　100 点 ※　注意：授業は全部出席してください。遅刻・早退・無断退出は 1 回につき 10 点の減点となります。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
保育内容（言葉）</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
佐藤　恵美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
11 回</td><td>時間数（単位数）
22 時間（単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td colspan="2">（ 必修・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
幼児が豊かな言葉や表現を身に付けるために、保育者として実践的な理解の習得や主体的な態度を養うことを目的とする。
［授業全体の内容の概要］
乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域における、「言葉」のねらいと内容を理解できる。
・乳幼児期の言語的発達を理解し、人的環境として保育者自身が言葉を豊かにするための実践について基礎的な知識を身に付けることができる。
・乳幼児期にとっての児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識を習得し実践できる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">１．保育内容（言葉）の観点について
２．乳幼児の生活と言葉の環境
３．乳幼児の言葉の発達と習得の特徴
４．言葉の発達を支援する保育者の言葉
５．言葉と児童文化財
６．言葉と児童文化財
７．言葉と児童文化財
８．言葉遊び（伝承遊び）
９．言葉から国語教育へ（児童期へのつながり）
１０．言葉に関する問題と保育者の役割
１１．試験</td></tr>
<tr><td>［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="4">『保育を目指す人の保育内容「言葉」』（みらい）</td></tr>
<tr><td>［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="4">授業態度、積極性：総合の 30％
試験：70％
総合点：100 点</td></tr>
</table>

授　業　概　要

（幼稚園専攻科）

授業科目名 保育内容（人間関係）			授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）
授業担当者 嘉代　由美子	実務経験		私立幼稚園において３～５歳児、認定こども園において０～２歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。
授業の回数 11 回	時間数（単位数） 22 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

・保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。

［授業全体の内容の概要］

・保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、保育全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・子どもの発達に沿った人間関係を育む支援や援助、活動を構想できるようになることを目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1.　発達段階ごとの人間関係の育ち
2.　豊かな人とのつながりが保障されるために必要な保育者としての支援とは何か。
3.　子どもの社会化について
4.　「仲間」から「集団」について
5.　領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」について
6.　人とのかかわりの育ちと言葉について
7.　保育者と子どもの関わりについて
8.　園の中での子ども同士の関わりについて
9.　「人間関係」の育ちと非認知能力について
10. 現代の乳幼児を取り巻く人間関係と「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」
11. スクーリング修了試験

［使用テキスト・参考文献］	［使用テキスト］ ・コンパス　保育内容人間関係（建帛社） ・幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ［参考文献］ ・演習　保育内容　「人間関係」（建帛社） ・新訂　子どもと人間関係　（萌文書林）

［単位認定の方法及び基準］	スクーリング修了試験　　総合の５０％ 授業中の態度、積極性　　総合の５０％ 総合点　　１００点

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業科目名 保育内容総論		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）
授業担当者 三上真里子	実務経験	私立保育園において 26 年間勤務をし、０～５歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	（ 必修 ・ 選択 ）
11 回	22 時間（1 単位）	1 年・前期	

［授業の目的・ねらい］

保育内容の５つの領域（保育所は「養護」的内容が加わる）は保育実践では分断されるものではない。具体的な生活や遊びを通した総合的な保育を展開させることである。実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育内容とは、幼稚園・保育園・認定こども園などにおける保育の目的を達成するために展開される保育の営み全てであり、相互に関連し、総合的に指導・展開されるものであることを、テキストや具体的な保育の実践事例を基に学んでいく。

［授業終了時の達成課題（到達目標)］

学生自らの主体的態度を育み、保育者として保育の多様な展開について必要な保育実践力を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1 回	遊びによる総合的な保育について。
2 回	子どもの遊びと５領域の相互性について。遊びを通して学ぶとは。
3 回	保育における養護と教育の関係とは。
4 回	保育内容を捉える視点「領域」について。保育内容とは何か確認する。
5 回	子どもの生活と遊びの関係について。遊びを通して学ぶものは何か。
6 回	年齢別の保育教材の活用と保育者の支援について。
7 回	多様な保育形態と保育内容について学ぶ。
8 回	教育課程・保育課程・全体的な計画とは何かについて学ぶ。
9 回	子どもの発達に即した指導計画のあり方について学ぶ。

１０回	保育の中で子どもの発達を捉える際の留意点について。
１１回	試験

〔使用テキスト参考文献〕	横山文樹・駒井美智子　編著 「保育を学ぶシリーズ２　保育内容総論　大学図書出版」
［単位認定の方法及び基準］	評価基準 スクーリング修了試験　　総合の 50% 授業中の態度、積極性　　総合の 50% 総合点　　100 点 ※　注意：授業は全部出席してください。遅刻・早退・無断退出は１回につき 10 点の減点となります。

授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目名
幼児教育方法論</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td>授業担当者
嘉代　由美子</td><td>実務経験</td><td colspan="3">私立幼稚園において３～５歳児、認定こども園において０～２歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
11 回</td><td colspan="2">時間数（単位数）
22 時間（1 単位）</td><td>配当学年・時期
1 年・前期</td><td>（ 必修・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の目的・ねらい］
幼児期のおける保育方法の基礎的な理論と実践について学び、実際の保育の場で必要とされる環境構成や幼児一人ひとりの理解の方法を身につけることを目的とする。
［授業全体の内容の概要］
幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている「ねらい」や「内容」を学び、基本的な知識や内容、指導の在り方を理解する。また、基本的内容の理解を深めるため、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていく。
［授業終了時の達成課題(到達目標)］
・幼稚園教育要領や保育所保育指針に述べられている保育者の役割がわかる。
・幼児期には幼児の主体性を育むための必要な幼児理解がわかる。
・日々の保育における記録の意味や省察・評価の意義がわかる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数</td></tr>
<tr><td colspan="5">1．幼児とともに生活をつくる保育者の役割について①
2．幼児とともに生活をつくる保育者の役割について②
3．幼児期にふさわしい教育の方法について
4．幼児の主体性を育む保育について
5．遊びの中の学びを育むための援助について
6．保育方法としての保育形態について
7．保育の評価について
8．家庭、地域社会や小学校との連携が生かされる保育について
9．環境・遊びを通しての教育
10．環境・遊びを通しての教育を行うために
11．スクーリング修了試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">［使用テキスト・参考文献］</td><td colspan="3">『幼児教育の方法』（北大路書房）</td></tr>
<tr><td colspan="2">［単位認定の方法及び基準］</td><td colspan="3">レポートおよび科目終了試験の評価に準ずる</td></tr>
</table>